

農経新聞

浜松地区での導入めざせ

市場で品種見本市 17社が推奨品種PR

青果育種研

青果育種研究会(会長＝岩澤均・東京千住青果社長)はこのほど、浜松市中央卸売市場で第157回品種見本市を開催した。会場には生産者など多数が訪れ、青果卸・浜中の池田規会長が流通の多様化の中で市場は「生鮮拠点から生活拠点への変革が迫られている」と今後の市場のあり方について述べた。その上で、種苗メーカーなど17社が持ち寄った浜松地区に合った品種の説明を受けたり、試食をして作付け計画を立てていた。



最も出展が多かった品種は「朝日工業は黄化葉目はトマト。丸種は、と巻病耐病性ミニ」AMMS「200」、トキタ種苗はキユートない「チコ型の「トマトベリ」、タキイ種苗は待望の「TYミニ」TYキ果、パイオニア「エコサイエンスは、からみつくうまみの「シシリアンルージュ」、ナント種苗

「若殿」、横浜植木は収量性抜群の「龍翔」、サカタのタネは夏蒔系新品種「SK21038」、リキは丸種が巻先出荷が可能で「ロングトン」、タマネギはカネコ種苗が驚異の早生性の「アリオン」を出品。

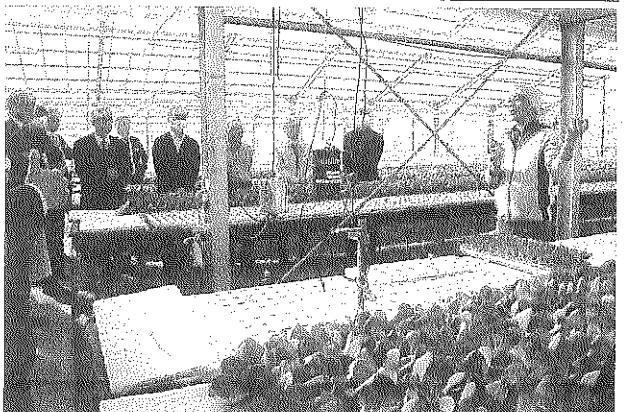
一方、浜松市中央卸売市場の2月の取扱いはスト3はタマネギ、ダイコン、キャベツ、同金額ベスト3はタマネギ、キャベツ、キュウリ。ダイコンは雪印種苗が加工業務用で人気の「冬侍」、カネコ種苗が低温伸長性に特に優れている「YR春の浦」、キャベツは増田採種場がお好み焼き専用「ふゆおこ」、タキイ種苗が加工・業務用に最適な「夢」も、キュウリは朝日工業がおいしさを実感できる「グラッチェエ2号」を紹介。

健康を考える上で今後伸びそうなケールはトキタ種苗がフリルの葉が特徴の「カリノケール」、増田採種場が初心者でも食べやすい新発売の「ソフトケール」をPR。アサヒ農園はとげなし単為結果ナス「ラクロ」を集中的にアピール。大和農園は食用ホオズキ「キャンデー」ランタを出品。浜松市は観賞用ホオズキの産地だが、地元ホオズキ市で県立浜松湖北高校農業科の生徒が育てた食用ホオズキの苗を販売するなど、食用への関心も高まっている。

浜松の多彩な農業現場を研修

青果育種研

青果卸売会社と種苗会社で組織する青果育種研究会は、浜松市中央卸売市場での第157回品種見本市の開催に先立ち、浜松地区で研修を行った。JAとびあ浜松で農業振興の取組みの説明を受けた後、セロリの圃場や、ユニバーサル農業



和農園は食用ホオズキ「キャンデー」ランタを出品。浜松市は観賞用ホオズキの産地だが、地元ホオズキ市で県立浜松湖北高校農業科の生徒が育てた食用ホオズキの苗を販売するなど、食用への関心も高まっている。

JAとびあ浜松は販売品取扱高240億円(2016年度末)の大型農協。管内ではネギ、温州ミカン、チンゲンサイ、タマネギなどさまざまな品目が栽培されている。2006年に営農アドバ「出向く営農指導」を強化。経営支援農家を選定し、農業所選定し、パンダーをはじめ病院給食向けなどへと幅広く供給。顧客のニーズに合わせて多様なカットに応じている。カット野菜はオゾン殺菌・漂白を行う。原料調達が不安定となりがちなか、種苗会社に対して「天候の変動に強い品種を」とリクエストした。